

主の昇天（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：マタイ 28：16-20

十一人の弟子たちは、ガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。イエスは弟子に言われた。「天と地の一切の権能を授かっている。あなた方はすべての民を私の弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって、洗礼を授け、あなた方に命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなた方とともにいる」

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#659、661、663-664、849-850、1120-1123；YOUCAT #109、138、198）

四十日の間、復活されたイエスの栄光は、普通の人間の姿のうちに隠されたままでした。この最後の段階は、天に上げられ、神の右の座に着かれた。キリストは、御父の右の座に着いておられることは、御父と同一実体の神としての栄光と誉れの意です。御父の右の座につかれたことは、メシアの治世の始まりであり、キリストは権威、威光、王権を受けた。彼の支配は、とこしえに続き、その統治は滅びることがありません。このときから、使徒達は終わることのない主の国の証人となりました。キリストが使徒達を派遣されたことは、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に福音を宣教し、述べ伝えられ、すべての民に洗礼を授けるためです。というのは、秘跡は神のことばとその言葉に同意する信仰とによって準備されるからです。それは信仰を前提とするのみでなく、言葉ともものをもつてこれを養い、強め、表すもので、そのため信仰の秘跡と言われます。ところで、御父が人となられた御子に委ねられた救いの使命で、今、使徒達に、また使徒を通してその後継者たちに委ねられています。後継者たちは叙階の秘蹟を受けて、イエスの名によって、イエス自身として奉仕的祭司職に与ります。キリスト者は洗礼、堅信の秘跡によって、普通の祭司職に与り、それぞれの身分や役職に従って、教会の一部を成して、神礼拝と教会の奉仕に参加します。神から諸国民のもとへ派遣された全教会は、救いの普遍的秘跡として、自分の創立者キリストの宣教命令に従いつつ、すべての人に福音を述べ伝えようと心掛けます。教会宣教の本源は、聖三位の永遠の愛です。教会は父なる神の計画による子の派遣と聖霊の派遣とにその起源を持っているので、宣教の目的は人々を愛の霊における父と子と交わりにあずからせることにあります。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#132 「主の昇天」の意味：

イエスがご自分を使徒達にお現しになってから四十日後に、天に昇られ、御父の右の座に着かれます。また、神の御子は、御父のもとで永遠の栄光のうちに治められる主であり、私たちに聖霊をお遣わしになり、絶え間なく執り成しておられます。

#166、172 信仰宣言において、「普遍の教会を信じる」という意味：

教会は、信仰と福音による救いの真理を全面的に、余すところなく告げ知らせ、世界にいるすべての民に派遣されます。主によるこの宣教への派遣は、神の永遠の愛の中にその源泉があります。そのために、ご自分の御子とご自分の霊をお遣わしになったのです。

最後の祈り：全能の神よ、あなたは御子キリストを栄光に高め、新しい天地を開いてくださいました。主の昇天に私たちの未来の姿が示されて、天に上げられたキリストに結ばれて、あなたのもとに導いてください。いつも永遠の命と国を目指し、日常生活の中で、神の愛と福音を生きることができるよう。